

2012.12【vol.30】

水レター「びわ湖・よど川」

独立行政法人水資源機構 関西支社 発行

水資源機構全体の取り組みや関西支社管内における情報のほか、琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を、水レター「びわ湖・よど川」により、関係機関の皆様にお知らせします。

index

- | | |
|---|-----|
| 1. 関西支社管内の気象および水源状況 | 1p |
| 2. 大雨の時期を終えて！ ～機構ダムの働き～ | 2p |
| 3. 南山城村『むら生き生きまつり』レポート from夜雀さん | 3p |
| 4. びわ湖の自然が育んできたもの（その2）
-ピワマスの産卵観察会に参加して- | 5p |
| 5. イベント報告 | |
| (1) 来て見て体験in村野浄水場 | 6p |
| (2) 大阪市此花区『環境と健康フェア』にパネル出展 | 7p |
| (3) 木津川の魅力を求めて『木津川上流散策路フォトウォーク』 | 8p |
| (4) 平成24年度第2回施設見学・意見交換会を日吉ダムで開催！ | 8p |
| 6. 疑問?に答えるコーナー 中期計画って？ | 9p |
| 7. 水資源機構 技術研究発表会に参加して | 10p |
| 8. 『仕事への取り組み方等のキャッチフレーズ（関西いろはカルタ）』のご紹介 | 11p |
| 9. 水資源機構に関するアンケートのお願い | 11p |
| 10. 水源地マラソン紀行（その6） | 12p |

編集後記



1. 関西支社管内の気象および水源状況

11月の降水量については、関西支社管内の全ての水源において、毎週適度な降雨があったため、ほぼ平年値となりました。各水源では、非洪水期に入った10月16日から引き続き貯水位が上昇しています。

青蓮寺ダムでは、10月末に平常時最高貯水位付近に達し、11月も引き続きこの水位を維持しています。

また、高山ダム、室生ダム及び布目ダムにおいて、各種工事のため貯留制限をしておりましたが、これを解除し、高山ダムでは貯水位を標高135.00m付近に、室生ダムでは貯水位を標高295.50m付近に、布目ダムでは貯水位を標高284.00m付近に向けてそれぞれ貯留しています。

～ 水資源機構(関西支社管内)の水源状況 ～

平成24年12月11日 9:00現在

施設名	貯水位(標高. m)	貯水量(万m ³)	貯水率(%) ^{※2}	降水量(mm) ^{※3}	
				(観測値)	(平年値)
高山ダム	132.94	4,405	89.5	95	72
青蓮寺ダム	276.47	1,863	97.5	66	72
室生ダム	289.46	804	60.5	84	81
布目ダム	281.89	1,097	86.4	82	74
比奈知ダム	299.52	1,424	93.1	68	69
一庫ダム	141.56	1,878	70.1	87	65
日吉ダム	191.05	3,535	98.2	71	72
琵琶湖	B.S.L. -14cm ^{※1}	—	—	143.5	101
7ダム 合計	—	15,006	85.2%	—	—

※1 琵琶湖水位は、12月11日 6:00の水位を表示しています。

※2 貯水率は、10月16日より非洪水期の利水容量で計算しています。

※3 降水量については、11月1日～30日までの累計値で、

琵琶湖は流域平均雨量、各ダムはダム地点降水量を表示しています。

水資源機構の関西支社管内における各ダムの貯水状況は、関西支社ホームページの水源情報に掲載しております。

<http://www.water.go.jp/kansai/kansai/html/suigen/suigen.html>

2. 大雨の時期を終えて！ ～ 機構ダムの動き ～

ダムの目的の1つには『治水』があります。

これは梅雨の時期や台風の時期にダムの貯水位をあらかじめ低くして、大雨などによりダムに流れ込む洪水の一部を貯水池に貯め込み、下流への流下水量を小さくして、ダム下流の河川に流す『防災操作』のことを言います。

また、この時期を洪水期といい、機構が管理するダム（高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、布目ダム、比奈知ダム、日吉ダム、一庫ダム）では毎年6月16日から10月15日までと決まっています。

今年もこの期間の8月14日には、未明より前線に暖かく湿った空気が流れ込んだことにより近畿地方で猛烈な雨が降り大阪府、京都府、滋賀県で多くの被害が起きました。

9月に発生した台風17号でも、日本各地は大きな被害に遭いました。この台風17号の降雨により、機構の高山ダム、青蓮寺ダム、布目ダム、比奈知ダム、日吉ダムでは防災操作を実施しました。特に、名張川上流4ダム（高山ダム、青蓮寺ダム、比奈知ダム、布目ダム）では淀川ダム統管理事務所長の指示によるダム操作を実施し、ダム下流河川の水位上昇の抑制に努めました。

また、この時に日吉ダムでは64%（9月30日12時）まで低下し渇水の恐れがあった貯水率を、約89%（10月1日12時現在）まで回復させ渇水被害の軽減も行いました。

報道にもあるように、近年では大雨の記録が塗り替えられておりますが、ダムはそのどんな大雨でも対応できる備えではありません。しかし、ダムの機能を最大限発揮し、被害を少しでも小さくすることを目指し、今後も万全の体制で管理を行って参ります。

今年の主な出水

日 時	気象状況	(関西管内)水資源機構施設の状況
平成24年9月30日	台風第17号は、30日には四国の南へ進み和歌山県潮岬付近を通過して、同日19時頃愛知県東部に上陸し、関東甲信地方、東北地方を通過して、10月1日昼頃には北海道東方海上に達した。三重県、奈良県で土砂災害、三重県、滋賀県で床上、床下浸水などの被害が発生した。	高山ダム、青蓮寺ダム、比奈知ダム、布目ダム、日吉ダムで防災操作を実施。 高山ダム、青蓮寺ダム、比奈知ダム、布目ダムにおいて下流河川の水位上昇を低減させる操作を実施しました。



室生ダム放流 6月17日(約17m³/s)



室生ダム下流(安部田) 9月30日(103m³/s)

(関西支社 施設管理課)

3. 南山城村「むら生き生きまつり」レポート from夜雀さん

ダム愛好家「夜雀(よすずめ)」さんから、「むら生き生きまつり」のレポートが届きました。

「むら生き生きまつり」とは、京都府南山城村が事業主体となって開催され、「都市農村交流」「地場産業の更なる推進」を図るもので、地産地消を目標に、農業生産者、村民が一同に集まる唯一の祭りとして、毎年11月に南山城村総合グランド(高山ダムのお隣)で開催され、村内外を問わず多くの方々に親しまれています。

秋が深まる高山ダムで水源地でのホットな話題をお届けします。

ダム愛好家 夜雀

南山城村は奈良県・三重県・滋賀県との県境で京都府の南の端にあります。水資源機構・高山ダムがある村です。高山ダムのある名張川はダム直下で木津川と合流し大河川となっています。昔から水力発電の取水堰堤も作られており、川とゆかりの深い村です。毎年11月に「南山城村 むら生き生きまつり」というイベントが行われています。



一年に一度だけ紅葉の美しいこの時期、ダムのある南山城村のイベントに合わせて高山ダムは巡視艇によるダム湖見学と堤体見学を実施してくださっています。

中々、体験できない
巡視艇体験という事で
行ってきました。



ダム湖巡視艇



おまつり当日はあいにくの雨でしたが、会場にはたくさんのテントが立ち並び、地元の名産品には長蛇の列ができていました。これは無料でふるまわれていた椎茸の炭火焼のテントです。とても香ばしい椎茸にお醤油をかけて頂くのですがとても美味しかったです。他にも美味しい物がたくさんありました



ダム湖巡視艇体験の申し込みは会場の高山ダムのテントで受け付けです。たくさんの方に体験していただくという事で30分置きに出発です。





見学手続きをしている時に南山城村の村長さんがお越しになりました。村長さんは昭和28年の山城大水害を体験しておられ、当時の災害の様子についてお話を伺う事ができました。

また、高山ダム建設の際には建設現場に参加された経験もお持ちで、当時の工事の様子を鮮明に記憶されています。

今はすっかり緑に覆われて、それといわれなくては分からないほどに風景に溶け込んでしまった原石山、左岸の原石山から右岸までベルトコンベアで骨材を運んでいたことや、バッチャープラントの場所なども全部覚えておられました。

山城大水害という経験をした村であり、洪水調節をする高山ダムが建設される時に村はダムにとっても期待していたそうです。

そしてそれに比べられるように毎年洪水調節を高山ダムは頑張っています。

村長さんからは河川環境について、名張川のダムが実施しているダム下流の置き土砂による河川の清掃効果と砂の補給についても期待しているとのことがありました。



ダム湖巡視艇体験の順番が回ってきました。右岸の巡視艇繫船設備迄はモノレールで移動です。降りる前に全員ライフジャケットを着着します。

巡視艇からみる高山ダムは普段と全く違う顔です。洪水期(毎年6月16日から10月15日まで)は梅雨前線や台風による出水に備えて水位を下げます。洪水期が過ぎたら雨が少なくなる春まで水をしっかり貯めに入ります。

ダム湖を巡視艇で回った後にはダムのエレベーターを使って堤体直下右岸の広場に下ろしてもらえます。

ここも見学会でなければ入る事が出来ない場所であり、真下から見上げるダムは大迫力。高山ダムは国内で12基しかない重力式アーチダムでもあり、見学していた方は皆さん、とても熱心に案内の方に説明を聞き写真を撮り、楽しく過ごしておられました。

来年も紅葉の美しい時にたくさんの方にダム湖に親しんで頂きたいと思いました。



「夜雀」さん：近畿在住のダム愛好家で全国のダムを精力的に巡り、インターネットサイト「雀の社会科見学帖 (<http://yosuzumex.daa.jp/index.html>)」運営・管理し全国のダム見学のレポートを発信している。

4. びわ湖の自然が育んできたもの(その2) ービワマスの産卵観察会に参加してー

平成 24 年 11 月 4 日（日）の秋晴れの日。滋賀県米原市を流れる天野川にて行われた「ビワマスの産卵観察会」に参加してきました。

この観察会は、「びわ湖の森の生きもの研究会」と「米原市ビワマス倶楽部」の共催により、この会に所属する会員と米原市役所の職員の方を含め約 30 人の方々が参加されました。

河口から約 5km 上流の米原市岩脇（いおぎ）において、ビワマスの遡上や産卵の状況を観察しました。「天野川ビワマス遡上プロジェクト会議」によって堰堤に設置された簡易魚道の周辺です。

「ビワマス」はサケ科に属する淡水魚で琵琶湖にのみ生息しており、産卵期には大雨の日に群れをなして河川を遡上することから「アメノウオ」とも呼ばれています。

ビワマスは、河川の水温が低くなる 10 月中旬頃から、琵琶湖から生まれた川を遡上し産卵します。

天野川では戦後、河口から 2～8km の区間に堰堤が整備されてからビワマスの産卵が見られなくなりました。

滋賀県では、ビワマスの遡上を復活させるため、下流域にある堰堤に魚道を設置する計画を進めており、今回の「天野川ビワマス遡上プロジェクト会議」により、魚道の効果を検証する目的で試験的に簡易魚道を設置しました。

観察会を主催した「びわ湖の森の生きもの研究会」の藤岡さんは「ビワマスの産卵は、ビワマスが誕生した河川の出来るだけ上流で産卵することが、個体数を増やすうえで重要なことである。」と話されていました。これは、ビワマスの孵化に適する低い水温が上流に行くに従って適していくことと、^{ひな}孵化した仔魚が生育に適した環境を選択する範囲が増えるなどの理由であるとのことでした。

簡易魚道周辺の観察会では、産卵したと思われる場所やその周辺で産卵を終えて死んだビワマスを確認することが出来ましたが、ビワマスの産卵行為は確認することはできませんでした。

次の観察場所である琵琶湖に近い下流では、雌が産卵するために河床を自らの尾ヒレで力強く掘っている姿を堤防の上から目視で観察することが出来ました。

観察会を振り返り、脈々と続く生きものの営みには感動を覚えました。

これから、11 月下旬まで琵琶湖の北の河川では、ビワマスの産卵が確認出来るかも知れません。流域の方々が琵琶湖の自然や営みに関心を持って、保全活動が持続的に行われ、また、魚道の効果が発揮されビワマスの個体数が増加することを願って止みません。

（関西支社 利水者サービス課 今井）



ビワマス産卵を見つめる
(天野川下流付近)



死んだビワマスを確認



堰堤に設けられた簡易魚道

5. イベント報告

(1) 来て見て体験 in 村野浄水場

去る、11月4日(日)に、大阪広域水道企業団の村野浄水場において「第2回来て見て体験in 村野浄水場」が盛大に開催されました。

イベントは、浄水池の上に設置された芝生広場とその周辺の屋外会場と、メイン会場となる平面系高度浄水処理棟内の2カ所で実施されました。

屋外会場では、初回から恒例になった東海大学付属仰星高等学校の吹奏楽部による演奏や白バイ、ミニパトカーやミニ消防車の展示など10のブースが、また、メイン会場では、浄水場施設の見学ツアーやヨーヨー釣り、あんぱんマン(パン)作りやアニメの上映などの子供向けブースのほか、公共機関や民間企業の総勢43のブースが出展されていました。

また、お楽しみクジや堺市上下水道局の「すいちゃん」をはじめ、5体のゆるキャラ達が会場を楽しませていました。

水資源機構もメイン会場の4階において、関西支社管内のダムなどを紹介したパネルの展示や琵琶湖の魚を水槽で紹介したり、日吉ダムの流木(天若湖に流れ込んだ倒木等)で作った堆肥の無料配布のほか、来場された小学生や小さな子供達に楽しんでいただけるように、ペットボトルのボーリングを併せて実施しました。

水資源機構のブースに立ち寄られた方々は、毎日使用している水道水がどこから来るのか、興味深く聞かれていました。

また、ペットボトルのボーリングでは、簡単にペットボトルを倒す子供や、なかなか倒せない子供など、様々でしたが、ペットボトルを倒した時の子供達のはしゃいだ姿を見ていると、私もうれしくなる一時でした。

当日は、風が冷たく日陰では寒い一日にもかかわらず多くの方々が訪れており、イベント会場のアンケートにお答えいただいた方が、昨年を上回る2102人ということでしたが、アンケートにお答えいただかない方や家族連れも含めると、更に多くの方々が訪れていたと思われます。

最後となりますが、大阪広域水道企業団の皆様、お世話になりました。

(関西支社 利水者サービス課)



すいちゃん
(堺市上下水道局キャラクター)



モッピー
(大阪府の生涯スポーツ振興マスコット)

すこやん
(大阪府子育て応援キャラクター)

おり姫ちゃん あまんちゃん
(大阪府交野市)

(2) 大阪市此花区「環境と健康フェア」にパネル出展

関西支社 中津川管理室 脇谷 渉

11月17日(土)に中津川管理室のある大阪市此花区において、すこやかでいきいきと暮らすために健康と環境について考えようという趣旨のもと「第22回環境と健康フェア」が開催されました。毎年水資源機構パネルを出展し、環境部門として、同機構のダムを紹介や、同管理室の事業内容をPRさせていただきました。

当日の天気はあいにくの雨。しかも開催時刻が近づくにつれて本降りに突入…。準備をしながら、お隣のブースの方と「この雨じゃお客さん少なそうですね」と半ばあきらめムードが漂っていましたが、始まってみると意外とお客さんがたくさん来ていただきました。



此花区役所 正門



開会セレモニーの様子

血管年齢測定やコンディショニング体験など、趣向がない機構ブースにもものぞきに來られる貴重な方に感謝しつつ、話してみると「水資源機構って？」という知名度の低さにショックを受けました。同機構の業務内容を説明すると興味を示してもらえますのですが、此花区の方々には聞きなじみのない法人のようです。今後もっと広報に頑張ります！

ちなみに。同管理室では、淀川左岸に位置する高見機場から取水し、下流河川へ浄化用水を送水して河川環境を維持するなどの「正蓮寺川利水事業」を行っております。詳しく知りたくなった方はご連絡をいただければ、喜んでご説明いたします。

それでは、来年のフェアのために水質測定の実演などを考えてみようかな！？



わかりやすい説明を心がけ

関西支社 中津川管理室 (連絡先) 06-6462-7701
(ホームページ) <http://www.water.go.jp/kansai/nakatsu/>

(3) 木津川の魅力を求めて「木津川上流散策路フォトウォーク」

爽やかな秋晴れとなった11月16日（金）、「木津川上流散策路フォトウォーク」が開催されました。

このイベントは、ガイドマップなどで水辺空間の魅力をPRするため、琵琶湖・淀川流域圏再生協議会が主催となり、一般の方々と川沿いの遊歩道（みずべプロムナード）を歩いて、現地の危険箇所などの状況を確認するとともに、ダムの見学や周辺の見所などの情報を収集するものです。

今年は、木津川上流の魅力を求め、京都府相楽郡笠置町周辺から水資源機構の高山ダム、三重県伊賀市の岩倉峠を経由して、JR伊賀上野駅までのルートの散策でした。

JR笠置駅から山々の合間を流れる木津川上流沿いには、東海自然歩道が整備されており、色づき始めた紅葉が出迎えてくれ、布目川の甌穴群、飛鳥路集落や潜没橋などの見所や歴史を、同行された河川レンジャー※の方から説明して頂きながら散策しました。

また、高山ダムでは、機構職員からダムの役割などの説明を受けた後、ダムの見学をして頂きました。

豊かな水と自然、そして歴史に出会える木津川上流の「笠置～伊賀上野駅」までの散策路を、皆様も是非皆様も一度散策して下さい。

（関西支社 利水者サービス課）



【木津川とJR関西本線】



【木津川支川の布目川の紅葉】

※河川レンジャーとは、

行政と住民との間に立って、防災学習や水防活動等の防災・減災を推進する活動、河川にかかわる環境学習等の文化活動や動植物の保全等の活動を実施するとともに、比較的穏便で危険を伴わない範囲における河川管理上の役割を担い、河川と地域との良好な関係を構築する人達です。

(4) 平成24年度第2回施設見学・意見交換会を日吉ダムで開催！

平成24年11月8日（木）と9日（金）に、利水者の皆様を対象とした施設見学会・意見交換を日吉ダムで実施し、水質保全設備やゲート設備等を見学いただきました。

施設見学会・意見交換は、総勢24名に参加していただきましたが、参加された方々からは、「実際に現場に勤務している職員が、様々な質問に答えてくれたので、理解しやすかった。」、「実際に施設を見学して、ダムの大きさや水の流れだけでなく、普段どの様にダムの管理が行われているのかが解った。」、「普段見ることができないダムの設備等が見学できて、勉強になった。」などのご意見・ご感想をいただき、機構のダム管理業務をご理解いただけたと感じております。

今後も引き続き、機構のダムや水源地域の現状等を紹介し、利水者の皆様にとって有意義な施設見学会・意見交換会となるよう努力します。

（関西支社 利水者サービス課）



【インフォギャラリーでダムの役割などを説明】



【ダム直下から放流設備を見る利水者の方々】

6. 疑問?に答えるコーナー

中期計画って？



当機構では今年度、第2期中期計画の最終年度となることや、次期中期計画などの作成中であることから、今回は中期計画に関する疑問にお答えします。



中期計画とは？



通則法(独立行政法人通則法)第29条により、国土交通大臣(主務大臣)が定めた期間において、当機構が達成すべき業務運営に関する「中期目標」を設定しますが、この「中期目標」に基づき、主務省令の定めるところにより、策定した計画を「中期計画」といいます。

なお、「中期計画」は、通則法第30条により策定することとなりますが、国土交通大臣の認可を受けることが必要となります。

また、通則法第31条では、「中期目標」期間内の各年度ごとに、「中期計画」に基づく「年度計画」を作成することとされており、「中期計画」は、機構の業務運営にあたっての重要な計画と位置づけられていることから、利水者の皆様へ関係する大切な計画ともいえます。

当機構では、平成24年度をもって第2期中期が終了することから、国土交通大臣においては次期「中期目標」、当機構では次期「中期計画」及び平成25年度の「年度計画」の作成を進めています。



現在の中期計画の評価はどのように行われるの？



独立行政法人は、中期目標期間終了時に国土交通大臣(主務大臣)から事務・事業の見直しをされます。具体的な流れは、

- ① 国土交通大臣が、事務・事業の見直し(案)を作成(独立行政法人評価委員会の意見を聴取)
- ② 政独委(政策評価・独立行政法人評価委員会)が、事務・事業の見直し(案)について検討し、勧告の方向性として指摘
- ③ 国土交通大臣が、政独委の勧告の方向性に沿って機構の見直し内容を検討し、見直し内容決定(独立行政法人評価委員会の意見を聴取)



政独委とは？



政独委とは、政策評価・独立行政法人評価委員会の略称であり、政府全体の「政策評価」と「独立行政法人評価」の要となっています。

なお、「独立行政法人評価」では、独立行政法人についての「各府省の独立行政法人評価委員会」が行った業績評価に対する意見を述べたり、中期目標期間終了時に、事務・事業の改廃に関して国土交通大臣(主務大臣)に勧告の方向性を行うことが政独委の業務としています。

◎「疑問?に答えるコーナー」に取り上げて欲しい疑問がありましたらご遠慮なくお知らせ下さい。

(関西支社 利水者サービス課)

7. 水資源機構 技術研究発表会に参加して

琵琶湖開発総合管理所 吉良 充

平成 24 年 11 月 20 日、21 日の 2 日間にわたって開催された平成 24 年度技術研究発表会に参加してきましたので報告致します。

水資源機構の技術研究発表会は地区予選と本選とで構成されており、今年は全国で 160 題が発表され、関東・中部・関西・四国・九州各地区の予選を通った 30 題が本選で発表するという形で行われました。

私は、「琵琶湖での役割を知ってもらうために」と題した琵琶湖開発総合管理所での積極広報の取り組みについて、本選に参加し発表しました。

各ブロック予選を通過した 30 論文はどれも現場実務の課題と解決を検討した意義のある研究が多く、論文内容もよくまとめられていて、発表者のプレゼンも非常に上手であったというのが感想です。

今年度は、理事長賞に 5 課題、特別賞に 3 課題が選ばれました。そのうち関西からは、理事長賞に室生ダム管理所 藤田正樹さんの「ダムゲートの放流範囲拡大に向けた検証～実証実験をふまえた室生ダムからの提案～」、特別賞に一庫ダム管理所の井上剛識さんの「一庫ダム非常用洪水吐ゲート設備ワイヤーロープバランス改善」の 2 題が受賞されました。

今年度の特徴としては、設備系（機械・電気通信）からの発表論文の受賞が多いことがあげられ、例年ですとダムの建設技術にかかる土木系の論文が多いのですが、まさに機構も管理の時代になってきたことを感じさせられました。

また、関西管内の一庫ダム管理所からは 3 論文が本選出場し、定員の少ない管理所から本選出場論文の 1 割を占めていることは特筆すべきことだと思います。

私は力及ばず、理事長賞はおろか、特別賞の受賞も叶いませんでしたが、今回の発表会出場を通して、一つのテーマについて自分の考えを論文にまとめたり、大勢の前でプレゼンするなど良い経験をさせていただいたと思います。何かテーマを見つけてまた、このような場に参加できるよう努力していきたいと思います。

【関西支社管内の受賞論文】

・理事長賞

論文名（タイトル）	所 属	発表者	共同研究者
ダムゲートの放流範囲拡大に向けた検証 ～実証実験をふまえた室生ダムからの提案～	木津川ダム総合管理所 室生ダム管理所	藤田 正樹	原田 陽一 石川 直敬

・特別賞

論文名（タイトル）	所 属	発表者
一庫ダム非常用洪水吐きゲート設備 ワイヤーロープバランス改善	一庫ダム管理所	井上 剛識

※詳しくは、水資源機構ホームページの新着情報をご参照ください。

http://www.water.go.jp/honsya/honsya/news/2012/11/news121126_01.html

8. 『仕事への取り組み方等のキャッチフレーズ(関西いろはカルタ)』のご紹介

第一次南極越冬隊長などを歴任した西堀榮三郎博士らが選んだ創作ことわざ「西堀かるた」があります。それは、ユーモアと示唆に富み、その面白さと生活に“希望を与え、決心を促し、人生を楽しむ”西堀かるたは近年賛同者が増えています。水資源機構関西支社でも、「西堀かるた」に倣い、国民や利水者の皆様からの更なる信頼を得て、より強い組織づくりを図るため、職員一人ひとりの仕事への取り組み方、定時退庁の呼び掛けや心構え等も含めた日頃の業務の指標として、「関西いろはカルタ」を平成23年度に作成いたしました。

関西管内の事業所で取りまとめた『仕事への取り組み方等のキャッチフレーズ(関西いろはカルタ)』を紹介いたします。



次回は、『や』、『ま』、『け』です。

9. 水資源機構に関するアンケートのお願い

機構に関するアンケートは、独立行政法人へ移行した平成15年度から毎年度実施していますが、利水者の皆様のご協力により、今までに9回を実施することができ大変感謝を申し上げます。

機構では、アンケートを実施することにより、利水者の皆様が機構に対する満足度の調査を行うことで、現状における課題を把握し、業務改善をすることにより、利水者の皆様の信頼性やサービスの向上に繋がっていきたいと考えています。

今年度においても、例年どおり12月中に利水者の皆様へアンケートのお願いをさせていただきます。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、平成25年1月下旬までに、アンケートにご記入いただき、機構へ提出していただくよう、よろしくお願いします。

(関西支社 利水者サービス課)

10. 水源地マラソン紀行(その6)

このところ朝夕と冷え込みが厳しくなりましたが、1ヶ月前までは半袖シャツを着ていたのが嘘のようです。

さて、各地ではマラソン大会が開催されるようになり、本格的なマラソンシーズンが到来しました。

今月は一庫ダムマラソンに出場したので報告いたします。

参加者は全種目を合わせて約3,000名と中規模の大会で、ダムの近くは大きな団地があることから、小学生から高校生までの人たちも多く参加しています。また、この大会には例年、地元川西市出身で元プロ野球選手の古田敦也氏やダイハツの若手有望選手が参加することもあり、大変人気の高い大会です。(昨年は世界陸上で活躍した中里麗美選手がゲストとして参加しました。)

私は何れの大会にも最長距離を走るのが常ですが、次週のフルマラソンに備えて、今回は10kmに参加しました。何れにせよこの大会のコースはアップダウンがきつく、好記録よりもダムの周辺の紅葉や豪華ゲストとふれ合うことが楽しみな大会です。

大会当日の11月18日は前日の雨が上がり、少し肌寒い秋晴れの天候でした。大会は10kmから始まり、5km、3kmとハーフの順で行われます。

9時30分、いよいよスタートです。3週間前の大会では疲労から足も吊ったりしましたが、その後の2週間は走る距離を減らして養生したので、今回は少し快調です。

ハーフのスタート前の10時20分までにはゴールしたいと目標にして走り、何とか目標どおりハーフのスタートまでに、足の痛みもなく爽やかにゴールしました。

その後、5kmの部、ハーフの部のゴールで一庫ダムの職員の選手を迎えましたが、中でも牧野さん、河本さんはお揃いのユニフォームで、1時間30分を切る好タイムでのゴールをしました。他の皆さんもそれぞれの思いで充実の笑顔でゴールです。

何よりも、前日の大雨の中、大会を設営された実行委員会の皆様に感謝いたします。

大会は今年で31回目の開催を迎えました。この大会は地元で定着し、今では無くてはならない大会であると強く感じました。

(ダムを走る男)



一庫ダム牧野、河本選手
好記録で仲良くゴール



一庫ダム参加者と記念写真
(左下がダムを走る男)

編集後記

2012 年も残すところあと僅かとなりましたが、12 月 2 日に中央自動車道のトンネルの天井が崩落し、犠牲者が出る大事故が発生しました。

このトンネルは 1977 年に開通してから 35 年が経過し、点検については 5 年に 1 回と定められ、今年 9～10 月に実施したばかりだったとのことでした。事故で亡くなられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

水資源機構施設も、管理開始後 30 年を超える施設が多くあるため、通常の維持管理を始め、施設等の予防保全対策・ストックマネジメントの重要性等を再認識する事故となりました。今後、老朽化により整備・更新が必要となる施設が増加していき、質の高い管理が求められていきますが、より一層、安心・安全な管理に努めて参ります。

さて、今年、一年、皆様におかれましては、どのような一年だったでしょうか？私事ではございますが、年男であった 36 歳にして念願のマイホームの建築に着手しました。完成は来年の 3 月の予定ですが、水資源機構では「家が完成してすぐに転勤になった」との声が多く聞かれます。私も関西支社に赴任し、3 月には 2 年が経過します。2 年サイクルでの転勤が多いことも重なり、私の心はクリスマスや年末年始の楽しい気分や夢のマイホーム暮らしを想像するといったことを飛び越え、3 月の異動の内示に戦々恐々としている今日この頃です。とは、言っても年末は、一年間健康で働けたことに感謝し、反省すべきところは反省し、異動のことも忘れるために忘年会で麦酒を飲んで、クリスマスにはサンタクロースを夢見る子供達とパーティーと称して麦酒を飲んで、大晦日には 1 年間の自分自身を労いながら飲みつづれるまで麦酒を飲んで、お正月から 3 が日は、新年が明けたことに感謝し、まだ見ぬマイホーム生活を祈念しながら麦酒を飲んで 1 年間の鋭気を養い、今年以上の自分になれるよう、頑張りたいと思います。

最後となりますが、今年 1 年、「水レター」をご愛読頂くとともに、水資源機構事業にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。来年も皆様にご満足頂けるサービスを心がける所存でございますので、また、来年もよろしくお願いいたします。

(関西支社 利水者サービス課 高橋)

水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望・ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡ください。(耳寄りな情報もお待ちしております。)

mailto: w-kansai@msg.biglobe.ne.jp



水資源機構ツイッターの URL は、
http://twitter.com/jwa_PR